憂榮成 爲 枯苓 帝 知無嶼 京 程定白華 臥塞頭美 月翁身客 人馬

之し 阿あ 日は 此と 之し 理り 者は 美心 登也 题I 里, 蚁水 乃の 比人的 世上 調以 能の 天で 無な 那な 浪む 華は 楚を 江に

730

興ま

夢道 加 佳か ラレ 臨 川庵

D るそ 7 人礼 1 をに 指處 口 L せ b た もれ ので、 た 清 雄然と 境 ŧ 立 そ 2 場場 のそ か偉 1. 大實 はに 不尊 幸 こそ とも 真らて の心あ 魂力

う波

英の

と涯

大上

あか

は . !

偉

0 大私曲 は折

瀾

生

偉

7

あ

る 桩

Ł

131

かり CI 1

0

地 兵

恶

宫

英雄

71.

あ

る

事

3

指

搞

L

た

S

0) 生 5 門 凹

嘉定 田上名舜 上 善 人 SI 17 兀 あ 衞享 は 3 門和 字 元又 14 颗 年、 天 眞 尾草 道 · U 張配 0 丹流大 羽後通 郡 17 2 尾自 号 崎ら L 世 村残 T ら 生 へ夢 n 現道 誕 在人 0 のと 專 古 称 た 董 。知世 治及時此野ら参石落との町れ巻 大た 稱 字 阿 5 崎 n isi 0 カル **j**革 門 現 地 傳 在 ZII 脇 燈 田

隆脇 ~河由 氏で 、來 C あ 張の 2 脇 7 薩団 摩な そ 家 はの 7 とに伊敷 分勢北に男 に男と 畠 L . 0 氏屋 た もの家上 L 農業を 人 臣 > 中ででで のさ 誕れ 7" 生 丰 . 家當 與 衞の殆喜 門後んだ で F 、と問尾 凹るいそ の家庭で 日れ尾産あは番 近が張がる。 去脇尾江 。田崎户

興の村 後直祖流 代煙でれ尾 々快あ 5 る h 2 211 居 吉 汞 と言い は れ土 31 O) 0 L ال るた 0 あ 3 2 0) 興 7 衞 始 門 17 8 た 永も 0 卯あ カル +

前 少 示 围 は 隆 3 7 は め 村 内 での 名 望 とな つ た 0 711 あ る 左 II 上

人



尚ら 定 ital 一舜 上 な 京た 時 農民 ほ 0) 自 2 上っ 伯 又 3 身 0 7 1 な 711 Vi. الع 0) てい、研伯 叔 上 は 14 5 2 人 古 3 學久 L 住 1= 職 知野 0 修梅 7 あ あ 生 ま た ŧ 6 1) 能 0) 村 3 あ 和 な 記 生 月 0 去 尚 素 ら 安藤 年 銀 0 1) n は 完 to 月 O) 於 大尾 梅 不 議 8 調 泉張山 氏 查 詳 寺丹和 な 0) た 女で ¿H 一列列 尚 7 6 T' 7 あ 世 か 京 郡 h 3 4 あ h 都 犬 山園 # た とと 万 De 弄 町 Ta 亭和 3 常 カト 附 満 吉 や は S 尚 17 た 1 不 0) 7 住共 かい 判 西 10 光 お 7 洞 戦 1 た 院 と肠 U 結 なら な) 田 家 C n in 親當 か、 1Z b 月 出 in 亭家 1# in 7

和

4 すく は 幼名 と成長 を米 せら 治 m と言い た は 0) であ n た 7 た。 ^ -しか 説 熊 L 次 即し尾 = 男で あ 崎 川原 るためい 附付 近 7 0) 自然 夫 711 ŧ لے

2 ゐる 要 ŧ な U 9

職 更 户 1= あ 文 亭上人 月亭和尚 化十 った。 年、 の許に寄寓 の上人 は知恩院 人 0) 十 上京につい 四歲 ともいろくの L 7 かかい 0 折 7 ては は僧侶をもつて身を 関係 勿論 があ 月亭和尚 抱 3 いて上京 0) n づ 0) 斡旋 た - 1 かせられ 淨土 2 7 よ 1 0) うと よる 力 主 车 決 ŧ 得 叔 華頂宮尊超法 攵の 11/ 0 せら 71 上 京 大 あ 泉 3 7/2 た

王 一御侍読 15 士一年五 觀營定 月九日に華頂王 典上人の資 として、 一宮に於 何に 御同学衆として即 て剃髮得度せら 華々しか ったか。 E I リ上門 の得 仕 度お せられ よび出仕 る事と IC

よ 定舜上 て売 分に想 0 僧侶 像 され 5 ての 3 も 門 0) であ 凹 如如 る。 カル

IF 上 n さ は ph 幼 名 幼 7 1 米吉 年 時 の名 在に残つてゐ 代 Y の書 少年時代にはかな b. m た漢籍 3 事でも推察さ リに勉学された 大學、孟子 れるところであ 論語 in N な 形 2" 0) 断 書籍 7 な 20 5

IE 些 座下 座下で布薩戒を相承 Sで翌年には賜香上 は 僧 刘舌 IE 增 で布薩 0 上 一寺へ入 精壓 人ナハ なった。 励 下 71 られ 江 在 戒 0 せられ 住面敬時 の倫命を家られ 五脈譽 大僧は 4 を相 年を終べ 7 承正の の下で五 られ学徳 人多年宿 τ. 0 重 更に 望 に文政七年華頂山に放て以五年に京へかへられた六に大ひに進まれ たので加行せられ、更に翌年に (1) 功 業 下 なり、 b 更に翌日 M 再 K 年 C 華頂宮家 た。 13 で 7 迎譽 は同 あ つ た 大 Ш 仕 僧

人對 文政 の際 ての 以八年に ・譽実に思 る事と 使者 の役目 は東府便節 ふべ きで を全かせられた。 • として江 寔に当時の 薩 下られ **黙も当時上人は年** 野と得 登城 意 なさま 7 は上人の生涯中の華であれてかけ五の青春。 時 0) 將 軍 + 10 1-

女 文 7 政 た 17 7 文 + 文 三年 政 政 नि + + 年 二年正 正 Ξ 同 月二 年 [3] 世 Ξ F 五 十一日權 F E 七 Ξ D 8 二十九歳で 勅許 万 少僧 Ħ 中 10 で宮 都 納 杏 行。胜法 家 う」」 住 臣 眼 信に tt 卿 I 叙せられ 马 界進 m 栖 た。 チと t たた。 られ AL た 清淨香

て、

一院を

拜党せられたが、 口宣宗の寫・左記の通りであ 更に盟天保二年十二月十九日 其の都度参内して拜賀せられたのである-+二月十九日権大僧都に任世られた。上人は三度までも綸旨を

宣宗

定舜

法眼

宣任權少僧都

正月二十一日

文政十二 寅年

敕

上卿大納言縣國長

文政十二五年

宣叙法眼

敕定

上 上卿右衛門督縣 原雕造

7 上人がかやうな栄達は実に異数なもので、僅か三十二歳で権大僧都に任ぜられ

權少僧都

定舜

敕 宣轉任權大僧都 天保二卯 十二月十九日人保二卯年

頭右中辨縣資車

書 (

七月廿六日

重

清淨香院御房

今度依 於重之至: 候仍而 令度依

沿

動

せら

も

此加 の名響に 對 しては

誠不 述べられてゐる程であつた。出世候故、生涯の盾目兹に相談に吾澤土宗にては凡を海内 に吾浄土宗・図も大僧都の かにてはこれ (凡そ海内無双の規模にて候。元來上民の子息にて、)迄昇進いたし、添くも禁庭の御次第にも出頭いたし、上人自身ですら 相究リ候。」 いたし候 图 分條へ

天草配流

5

同定 舜上人の異數 軍から族 奶を受けらる の昇進に對して、それ うに 至った は いついい かなる場合 ずる事 である 加州

がら實に之気 に水であつたに相違ない。と上人の書信にあるやうに實に天保三年の上人の蹉跌は、上人にとつて治んど寢耳と上人の書信にあるやうに實に天保三年の上人の蹉跌は、上人にとつて治んど寢耳ヶ間敷儀も無之、半は一宗之御門主にて被爲在候大王の御目代に罷來り候振合に像がら實に之重犯に而も有之候得は、末代迄の恥辱にも相成事に候得共、左樣の不淨がら實に之重犯に而も有之候得は、末代迄の恥辱にも相成事に候得共、左樣の不淨 上人の天草配流の原因については、上人が後年へ明治元辰年二月ン上司にに水であったに相違ない。と上人の書信にあるやうに實に天保三年の上人の蹉跌は、上人にとつて始んと、上人の書信にあるやうに實に天保三年の上人の蹉跌は、上人にとつて始ん も有之旁 口護言 相請 候 事に候得ば、

H 熊 本 縣 天草 田代高 俊 民

一同所多年御出入之両替の中者へ主用之葵を 紋付五條袈裟三局申付候御館入罷在候裝束師を差 替御 在候 御紋付盃壱個為賞美御用達罷在候銀屋百兵衛と五條袈裟三肩申付候毀越度入罷在候裝束師を差置候で 差遺候 と申者でで、新り 参 段越 成 候事 其 度に相互に原御室 屋 室へ 成候 冊 忠精 後 屋 之動 德 衞

付右 遠 其 座 島 御教断 御 季の 之廉 X 15 て相 に御 座候 济 中候 た 外に御 尋之係も有之候へ共、分明 1= 相 知 候

配生天き涯草 は て置 隂 勿 論 机 カル 配 諸 かう 1 3 流 栄譽 書き 人 7 な 0) 0 原 H た徴取 嫉 た 因 あ てゝみるやう みと、策動が 3 Id 地 右 位 の二件 轉落 から一朝 上司 17. 0 5 禍 な事は # な あ で持出 0 源であ た事は想像 てゐる。 -介の流 t 上人の不 ったな N そし て重大問 人となって 5 N どういか事を誰 て左 否。 題 様 とさ 化 7 然し足様な俗 れる 73 わ 西 づかな越 所 # 海 での 7 1m 0) 予 果 あらうか 事に 経 期 度 夫 緯 草島 6 カル につい つい 大 な 7 う 2" 7

は

車

L

7

上同 年 宠 七 函 五 関九 京 沙州 都 東 奉 0) 孤 島 深 天古谷 遠 汀 ^ 守 西巴 流 0 裁 5 決 断 定 li T 0 五 月 退

寬 かり 無 大 に排信に対信都も 満 10 宮 纜 は讒 0 事 者 10 0 紫 7 薩 1= 人難 摩潟 5. < 鬼 7 比是 界 . 則 か無 も娑 島 婆 10 # 流 難 界 5 ti 0 礼泽 有 玉 汉 地樣 131 12 11 7 候 手 は M 謫 # れ 10 机 F.

し而。人 中 杰 後の 暑 3 るの。虚御抔共 基。に裁は を・而断中宿存・候 もっ 常 候。の格石の に・全。御のれ 而。前。趣 4 15 の。え 宿。事 寸 因。故 0 '存。不 に 候。得 無 ,已之 肽。事 薄 710 ば。配の 格所凡 別の 夫 10 心。客 8hot 7 に利 候 も。成 不。候 存事

胸父心 3 0 對 を世が然 宿現 i 因 し記却。世 > 6 7 不 6 7 か私 觀 da. 7 じらぬ世。好 却るれ提。知 # のら達 じら 711 京は 12 あ 別最 0 つあ て 離も 7 も 嚴 7 0 0 7 (肅 17 後 C 7 n な 世 1 0 れ件わ ・晋か H 7 提入事事。是别等加 は 0) 出 7 L 0 3 2 り世 人 7 基 不 7 p 芝 幸多候世・意 前文 7 借 思 度 都深 場條 孝 な 辱 のい巻心 5 な尾の心 持 72 tt 3 た 他 5 か村の 感 8 N 60 厚 tt 動 影ま た ずに かり 故 4" 珍 油 つ 世 サ 瓏 しから 定 ता 3 た . 待 上 上 も 3 世 M 5 人 3 人 K 0 本 格 強ひ とい魂 # 0) 7 つ 七 0 di 5 为 1 落 3 CI 的 は 为 き も 为